

『社会言語科学』特集論文募集のお知らせ

学会誌編集委員会では、以下の要領で特集「人・文化・社会を理解することばの対照研究」の論文を募集いたします。特集に投稿された論文は、通常の投稿論文と同じく、査読を経て掲載が決定されます。

なお、特集では最終投稿期限が設定されていますのでご注意ください。投稿論文は基本的に投稿され次第、査読作業に入ります。したがって、より早く投稿された論文ほど、査読が早く済み、論文を修正する機会が多くなります。最終投稿期限は特集論文の投稿を受け付ける最終期限という意味ですので、早く投稿できる方は早めに投稿されることをお勧めします。刊行時期までに採択とならないときは、特集号以外の号に掲載されることもありますのでご了解ください。

特集論文の最終投稿期限：2017年9月30日(土)

掲載号の発行：2018年9月(第21巻第1号に掲載予定)

特集論文の投稿先：電子投稿システムを通じて投稿してください(本学会HPの「学会誌」ページ参照)

タイトル：人・文化・社会を理解することばの対照研究

担当エディター： 岩田 祐子(国際基督教大学)
金 庚芬(明星大学)
楊 虹(鹿児島県立短期大学)
白井 宏美(慶應義塾大学)

本特集では、複数の言語を分析対象とする研究の中で、とりわけ、ことばを人・文化・社会との関わりにおいて取り上げた、様々な角度からの対照研究を集めることで、現状を把握し、その成果および課題を議論し、さらに進める場を提供することを目的とする。

日本の社会言語学においては国立国語研究所の『言語行動における日独比較』(1984)より始まり、現在は日英をはじめ、日韓・日中・日仏などの対照研究も盛んに行われ、社会言語科学大会での発表や『社会言語科学』の論文にも多数見られるようになってきた。研究対象の分野も依頼、勧誘、断り等の言語行動に関する研究や、あいづち、話者交替、聞き手行動、話題転換の仕方など、相互行為の分析に焦点を当てた研究、さらには、ケータイメールやSNS、チャットなどの新しいメディアの研究まで幅広く行われている。また、談話分析の視点から行われた日英語の対照研究では、対人関係維持の言語ストラテジーは、単に表現の選択に留まらず、談話の運び、自己開示の方法、参加者間の発話の配分、聞き手の役割や行動等の多岐に渡っており、日・英語間でかなりの違いが見られることが明らかになっている。これらの研究は、対照研究への新しい示唆を与えている。

これまでの『社会言語科学』の特集号の中で、対照研究関連のものとしては、個別の言語を取り上げた「日本語と韓国語・朝鮮語をめぐって」(第8号)はあるが、総括的に対照研究を取り上げた特集が企画されたことはない。しかし、これまでに行われてきた日本での対照研究の成果は着実に蓄積されてきており、それらは、言語間の異同の明示の他に、当該の言語文化、社会、対人関係の有様の究明にも役立ち、また、学問分野においても、言語学、心理学、社会学、文化人類学、情報学などの学際的な研究の発展にも貢献できると言える。そこで、本特集では、「対照研究」というテーマで、様々な角度からの研究論文を募集する。

分析対象としては、言語行動、非言語行動、言語使用意識、言語ストラテジー、談話行動、モバイル端末使用などが挙げられるが、それ以外にも斬新なテーマの比較対照を期待したい。また、語彙や文法を取り上げる場合、その体系や構造における異同の記述に止まらず、そこから読み取れる当該言語の社会言語学的な特徴を考察する論文を募集する。それぞれの言語の特徴や互いの異同を明らかにし、また異文化コミュニケーションの課題の解決へと広がる可能性を探り、さらには、対照研究が外国語教育への示唆や提言へと繋がるように、対照研究にとどまらない視野の広い研究も大歓迎である。

分析に用いられるデータとしては、アンケートやインタビュー、談話、コーパス、翻訳物、シナリオやドラマ、ネットの書き込みや SNS など、実に様々な題材が用いられるであろう。

単一の言語現象では気づかないことも、異なる言語と比較対照することによって、その相違点や類似点が浮き彫りになり、それらを考察、議論することにより、その背景となる言語文化および社会、人々を知り、理解するきっかけになる特集にしたい。